

2026年9月

神戸東洋日本語学院

1. はじめに

神戸東洋日本語学院は、登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関として、研修事務規程・養成業務規程第14章の規定に基づき、自己点検及び評価を行った。

2. 点検項目

(1) 実践研修及び養成課程の内容

実践研修、養成課程の科目及び時間数、授業方式は、次表のとおりである。

区分	科目NO.	科目名	時間数	授業方式
実践研修	研1	教育実習	52	対面
養成課程	養1	音声学	20	対面
	養2	言語学	16	対面
	養3	コミュニケーションと異文化理解	20	対面
	養4	日本語学	24	対面
	養5	日本語教育学概論	20	対面
	養6	日本語教育とICT	16	対面
	養7	日本語教授法	28	対面
	養8	文法	40	対面
	養9	文字と表記	16	対面
	養10	進路指導	(4)*	対面
	養11	実践初級A	48	対面
	養12	実践初級B	48	対面
	養13	実践中上級A	48	対面
	養14	実践中上級B	48	対面

*自由選択科目

(2)教員体制

①実践研修

	職名	人数
1	実践研修を担当する指導者	3
2	その他の職員	0
	合計	3

②養成課程

	職名	人数
1	本務等教授者	3
2	その他の職員	0
	合計	3

(3)施設及び設備

神戸東洋日本語学院(神戸市中央区北長狭通4-5-7)に備える施設及び設備を用いて実践研修及び養成課程を行った。

(4)受講者の評価

受講者(修了者)に対し、講座内容に関するアンケートを実施した。

アンケート対象者： 7名 うち回答者： 7名

回答方法： 5：非常に満足 4：満足 3：どちらともいえない 2：やや不満 1：不満

設問	養成課程 平均	実践研修 平均	全体平均
①養成課程(または実践研修)全体の内容はどうでしたか。	5	4.7	4.8
②授業を通して、日本語教師として必要な知識やスキルが身に付きましたか。	5	4.5	4.8
③講師の説明や指導は分かりやすかったですか。	5	4.7	4.8
④授業の進度や学習量は適切でしたか。	5	4.5	4.8
⑤使用した教材の量や費用は適切でしたか。	5	4.8	4.9
⑥課題や提出物の量は適切でしたか。	5	4.8	4.9
⑦スケジュールや事務連絡など、コースの運営は適切でしたか。	5	4.8	4.9
⑧実際の日本語教育現場を意識しながら学ぶことができましたか。	5	4.5	4.8
⑨本コースで学んだことは、今後日本語教師として活動する上で役に立つと思いますか。	5	4.5	4.8

⑩修了後の進路

・国内の日本語教育機関…5名　・海外の日本語教育機関…1名　・オンラインで教える…1名

受講者満足度アンケートでは、全9項目の全体平均が4.8～4.9点／5点となり、養成課程及び実践研修ともに、全体として高い評価が得られた。養成課程については、すべての項目で平均5.0点となった。コース全体の内容だけでなく、講師の指導、授業の進度・学習量、教材、課題、運営等についても高い満足度が確認できた。実践研修についても、すべての項目で平均4.5点以上となった。特に「使用した教材の量や費用」「課題や提出物の量」「スケジュールや事務連絡などの運営」は4.8点と高く、教材や学習負担、運営面について良好な評価が得られた。

一方、「日本語教師として必要な知識やスキルが身についたか」「授業の進度や学習量」「実際の日本語教育現場を意識しながら学ぶことができたか」「今後日本語教師として活動する上で役立つと思うか」は、実践研修でいずれも4.5点となった。十分に高い評価ではあるものの、他の項目と比較すると改善の余地がある。今後は、実際の教育現場との関連をより明確にするとともに、授業実践に必要な知識・技能を具体的に活用する機会を充実させることが課題である。

修了後の進路については、国内の日本語教育機関5名、海外の日本語教育機関1名、オンラインでの日本語教育1名となっており、修了者の活動の場が国内の教育機関にとどまらず、海外やオンラインにも広がっている。今後も修了者の進路を継続的に把握し、多様な形で日本語教育に携わることができるよう、情報提供や支援の充実を図っていききたい。

なお、開講初年度で受講者数が限られているため、今回の結果のみで教育内容や運営を評価するのではなく、今後も継続してアンケートを実施し、受講者数の増加に伴う評価の変化を確認しながら改善につなげる必要がある。

(5)その他必要な事項

特記事項なし

(6)登録日本語教員養成コース運営者による自己評価

本年度は、登録日本語教員養成課程及び実践研修の開講初年度であったことから、受講者数は少数にとどまった。一方、法務省告示校内で実施することにより、教育現場との連携を図りながら、安定した運営体制のもとで養成課程及び実践研修を実施することができた。

授業では、初級及び中上級においてそれぞれ2種類の教材を使用した。複数の教材を購入・使用することは受講者に一定の負担となったものの、異なる特徴を持つ教材や教授法に触れる機会となり、受講者からも、多様な教材を知ることができた点を評価する声が聞かれた。今後は、受講者の負担にも配慮しながら、複数教材を活用することの教育的効果をより高められるよう、使用方法や教材構成について検討していききたい。

修了者の中には、弊校の法務省告示校で日本語教育に従事している者に加え、海外で日本語教育に携わっている者もいる。修了後の活躍の場が国内外に広がっていることは、本課程及び実践研修の成果の一つと考えられる。今後は修了者の進路や活動状況を継続的に把握するとともに、国内外の日本語教育機関とのつながりも活用し、修了者の進路の選択肢をさらに広げられるよう支援体制の充実を図りたい。

初年度の実施を通じて、安定した運営及び教育を行うための基盤を整えることができた。次年度以降は、今年度の実施結果や受講者からの意見を踏まえて教育内容及び運営方法の改善を進めるとともに、受講者の確保にも取り組み、継続的かつ安定した養成課程及び実践研修の実施につなげていくことが課題である。